

八剣山の会春秋

春季号

平成27年3月20日

「八剣山の会春秋・編集部」発行



＜美榛苑＞ 画・野田庄次

出雲の国、カニ&温泉ツアー

2015.1 高見記

新しい年の事初めは林田さんの企画で奈良交通のビューティフルツアー、カニ三昧玉造温泉となりました。道中、中国山地は雪模様となりましたが多くの皆様（10名）の参加で楽しい旅となり、多くの思い出が生まれました。（写真提供：須藤さん他）

[日 程] 2015年1月30日(金)～31日(土) 一泊二日

[参加者] 林田、野田、里中、金城、甲斐田、増谷、須藤、三明、美浪、高見

[行 程]・第一日目 八木駅→美作(昼食)→足立美術館→玉造温泉、松之湯(泊)
・第二日目 松之湯→めのう伝承館→出雲大社→島根ワイナリー→大根島(昼食)
→境港→お菓子の寿城→(近鉄奈良)→八木駅

八木駅 7:20 発



永田さん



稲田さん



美作で昼食。皆さん、もっとリラックスして！



足立美術館。庭園日本一（2003年から12年連続）



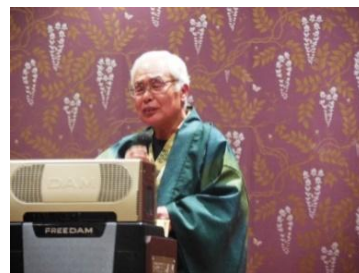
横山大観画伯の“海上日出”



松之湯



“待望のカニ三昧”



企画案内人も熱唱

乾杯！ さあ宴会だ！



どこの芸人さん？



画伯も挑戦



宿の人に見送られ二日目の旅に



特産の勾玉



作業風景



全員集合。今年も元気で！



説明の渡部さん



見事な千木



呑み助の集団、試飲でお替り連発



大根島の由志園にて昼食



寒牡丹



境港で海産物の買い物



菓子の城で試食タイム



八木駅に20:20に到着。“お疲れ様でした”

「出雲の国カニ食いツアー」より

～俳句編～（１）

冬波の鋭く光る日本海 甲斐田博幸
枯山水岩の高さや日脚伸ぶ
石庭の砂の一粒日脚伸ぶ
名園の端を灯して梅の花
風花の光の下のさざれ石
藁苞に日差し欲して寒牡丹
受け継げし高麗人参島の冬
ずわい蟹宴会場を鎮めけり
記紀の里惟神に返る雪景色

十勇士揃い出雲へ寒詣 須藤 和雄
凍滝（いてたき）も配し名園凜として
凍てし夜のどじょうすくい湯ざめして
寒空のもとで四拍の縁結び
雪晴れや鬼太朗像は客を招び

北風を防ぐ八重垣出雲の地 高見 毅
出雲路へ寒さ知らずのバス旅行
顔緩み黙々突く蟹の鍋

小雪舞う出雲の国の蟹の宿 美並 敏明
春近し遠路の旅も良しとして
足湯して独り楽しむ冬帽子
湯けむりの漂う川に鶴一羽
本場なれや蟹三昧の冬の宿
大観の絵に求めたき冬景色

寒牡丹蓑をまとして咲き誇る 三明 博夫
出雲路の築地松（ついじまつ）にも雪時雨
寒風に大日の丸がたなびきて

「出雲の国カニ食いツアー」より

～俳句編～（２）

金城 凡生

トンネルを抜けるたび濃く雪景色
凍雲（いてぐも）を見上げて浸る足湯かな
穴道湖にこの幸ありて蜆汁（しじみじる）
合掌の真菰（まこも）に開く寒牡丹
蟹鍋の宴の仕上げは安来節
黙々と皆黙々と蟹の鍋
ありがたや足湯の溜まり寒の川
出雲路やほどほどの雪賜わりて
名園の白砂青松ささめ雪
穴道湖の波は荒れても鴨の陣
山陽路抜けて出雲路雪時雨
凍雲に隠れていたり伯耆富士（ほうきふじ）

出雲大社にて

色変えぬ松尊びて出雲かな
四拍に願いも増やし寒詣
山男衣（きぬ）も畏み寒詣
一月は尽きれど尽きぬ神話かな
降る雪や檜皮（ひわだ）の屋根は黒々と
君が代に浸り出雲の寒詣
寒空の大日の丸を尊ぶべし

冗 句

金城 凡生

林田さん二礼四拍で感謝です
あざやかな蟹捌きです柔術士
ごめんやす飲み放題のワイナリー
酒盛りの宴なくちょっと寂しさも
勾玉に触れて良いことありそうな
どうしたの酒のすすまぬ剣術士

野田さんに敬意を表し３句

安来節大会優勝おめでとう
その顔は崩さずびったり安来節
カラオケに踊りも添えてらしくなり

以上

雪の観音峰

2015.2 高見

本年度の最初の山歩きは霧氷バス（奈良交通）にて大峰山系の展望の山として名高い“観音峰山”です。参加者は少数（4名）となりましたが天候にも恵まれ多くの登山者と共にアイゼンの心地よい感触、霧氷の木々、青い空、雄大な大峰山の雪景色など、雪山賛歌の1日となりました。また、下山後の温泉も最高でした。

《登山日》 2015年2月14日（土）

《行先》 観音峰山 1348m

《参加者》 須藤和雄 木山裕昭 美浪敏明 高見毅

《記録》	八木駅発 8:00（天川村役場でチェーン装着）	登山口着 10:00
	登山口発 10:20	観音峰展望台 11:40
	観音峰 12:00	
	昼食 12:00～12:30	登山口経由
	洞川温泉 14:45	
	洞川温泉発 15:30（天川村役場でチェーン脱着）	八木駅着 17:30



・八木、橿原神宮、下市各駅から登山者が乗車（バス2台） ・奈良交通以外にもツアーバスが2台、賑やか



・登山口にてアイゼン装着、準備OK



・観音平にて休憩後、急坂を登り始める



・アイゼンのザクザク音も心地良く



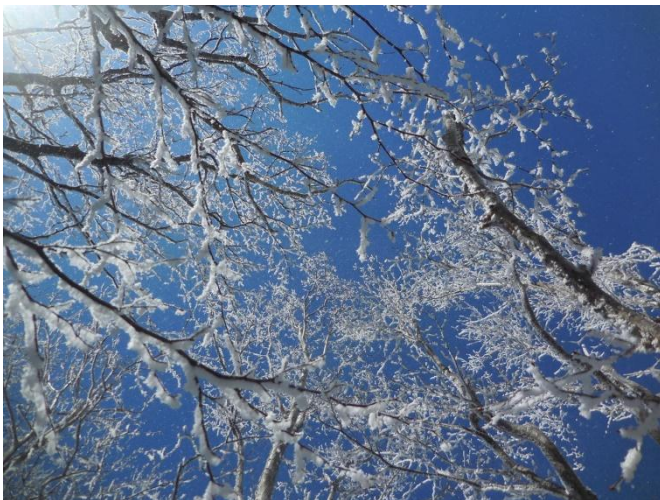
・稲村ヶ岳、大日岳が顔を見せて来た



・展望台、晴れ間も迎えてくれて記念撮影



・稲村岳、大日岳をズームアップ（須藤撮影）



・青空を背に霧氷の花が美しい



・風に舞い落ちる霧氷花を気にしながらの昼食
（でも、ブレンダー入り紅茶の味は格別）



・遥かに鉄山、弥山を眺めつつ展望台を越え下山開始。天からの贈り物、白雪と白雲が清々しい



・弥山を背に今回のリーダー



“雪山賛歌” 皆さんも満足顔だ！



・洞川温泉にて汗を流し、疲れを癒す



・八木の八剣伝にて喉の渇きを癒す、おいしいね

アンナプルナベースキャンプトレッキングレポート

8～23 NOV 2007 林田俊彦

3年前エベレスト街道へ行き次のネパール行きはアンナプルナへ行きたいと決めていた。季節は山がきれいに見える確立が高い11月、そしてそろそろ年齢を考えて長期のテント泊はこれで終わりにと思っていた。小西氏も行くという、彼は今年3月に一部分がダブル同じコースを奥さんで行っている。世界のトレッカーが集まるネパールヒマラヤの6000~8000mの白い峰々が連なるスケールの大きい山々を見に行き感動を共有したいとウエストフォースのメンバーに呼びかけるが結果は2人で行くことになる。

小西氏がカトマンズに知り合いの日本語のできる旅行社のウッタム氏とメールでやり取りして航空券（Eチケット）の手配や日程のやり取りをしてくれる。小生もビザの申請や保険の手続きを初めてする。個人旅行で全日程ロッジ泊も体験することになる。

ネパールでは11月8日より日本の正月のように4日間国民の休日になるティハールの祭りに運よくあたる。地方に出稼ぎに行っている人達が実家に帰り家族がそろってお祝いするもので、特にネパールの多くの子供達に出会い歌や踊りを見せてもらった。道中待ち構えた数人の子供達に道をふさがれお小使いをせがまれることもたびたびあったがそれも楽しいふれあいだった。昼食のロッジでは若い女性から男性へ額に七色の顔料で化粧をしてもらい健康と成功を祝う行事があるが我々にもおまじないか額に丸く点を付けてもらい、マリーゴールドのレイを掛けてもらい宿まで歩いた。宿では夜に中庭で遅くまで近くの住人が集まり歌い、踊る祭りに参加、一部のトレッカーも踊りの輪に入り、我々が少しの寄付をするたびに大きな拍手がわく。楽しい体験をする。

さて日本からツアーで行くテント泊と個人旅行のロッジ泊の違いについて述べよう。ツアーでは万一の高山病などの安全対策の配慮が行き届いている。個人旅行の費用はツアーの3分の2くらいと安くつく。

ツアーの食事は同行のコックやキッチンスタッフが日本人向けに配慮（日本食の配慮や好み、特にデザートなど）がされるが、ロッジ泊の食事はすべて我々がオーダーするので好みがちになる、量がわからないのでどうしても食べ過ぎになる。今まではツアーのコースにもよるが5kgほどやせて帰ったが今回は体重が減らずがっかり。

ロッジ泊のメニューはヨーロッパ系のトレッカーが多いのでそれらに合わせてあり概ねコース中統一されていてそのメニューの多さにはびっくりした。ダルバート（ネパールの代表的料理でばさばさの米に豆入りのカレー風をかけて食べる）、鶏肉、じゃがいも、卵料理、スープ、ヌードル、ピザなど。なにせ量が多いので注意、夕食時皆が集中するので宿に着いたらすぐ料理の予約をしておく。

我々、朝はおかゆ系と卵、昼はヌードル系、夜はいろいろとチャレンジする。食事と休憩の度にお茶をたっぷり飲む。

1日の歩行時間は3～6時間、ゆっくり歩いて、休憩を含めてプラス2時間くらい。

朝5時半か6時に起床、7時から朝食、7時半頃に出発。14～15時に宿に着く。

11月は寒いと思っていたが3000mくらいまではとても暑く日中チョムロンまでは半そでの

TシャツでもOKだった。冬装備に近いものを準備していたが、それから驚きは山桜が満開、セミが泣き、花や果物も日本で見かけるものが多かったのも意外だった。山は朝6時過ぎから10時ころまでは雲が無く見られるがその後は雲で覆われ夕方近くには少し見られるのがこれまでのパターンだ。

ロッジ泊はレストランのテーブルを囲み夕食時世界中のトレッカーと片言の英語でも会話が十分に楽しめたこと。ツアーのテント泊では1張のテントに2人で寝泊まりするし参加した10人前後と長い間3食一緒に食べ、連日一緒に歩くのでより深く親交の機会がある。

帰国後も何人かとは交際が始まるという点が大きな違いだ。

13日チョムロンからヒマラヤホテル間では昼から雨、14日マチャプチュレBC(3650m)に着いた昼からは雪が降りさすがに寒い。ロッジの部屋は個室でベットが2〜3あり、持ち込みのシュラフにホテルの上布団をかけ、着込んで寝るので寒くはなかった。

15日マチャプチュレベースキャンプ(MBC)から目的地のアンナプルナベースキャンプ(ABC、4,130m)まで今日の日程は1時間30分、ヒマラヤホテルで知り合った連中はMBCを通過してABCまで行った人も多かったが、昨日は曇りで山が見られなかったとか、今日は朝の日の出から快晴、道中の道は薄っすらと雪が被っているが雲ひとつ無く、後ろにマチャプチュレ、前にアンナプルナサウスがだんだん大きくなり昼前にABCに着いた。時間をもてあましてどうしようか?と思ったが目的の所で十二分に神々しい山々に囲まれて時を過ごす、贅沢なこんな日もあってもいいかなと思った。最高の天気でラッキー。

ガイドと2人のポーターと感謝の握手を交わし、記念撮影、お祝いに日本から持ってきたぜんざいと餅を皆で食べる。昼食後ホテルより奥へ行き高台からカメラに納まりきれない山々を仰ぎ見て、身体を360度回してパノラマ撮影が出来た。同じような写真を何枚撮っただろうか、ヒマラヤの白銀の山々に抱かれた円形劇場と評されるゆえんだ。

その後、興奮のさめない内にと家族や山仲間には絵はがきをロッジのバルコニーでお茶を飲みながら書く。本当に至福のひと時だ。日中は日差しがあるので寒くはない。

行きは6日掛けて登ったのを、帰りは3日で下る。トレッキングの最終日、チョムロンからナヤプルの途中ジヌーでは急坂の下りを40分かけて川そばの露天の温泉へ行く、予定外だったがこれは個人旅行ならではのおまけだ。早朝の為か2人で独占して入浴、きれいに整備されていてとても気持ちよかった、温泉番の老人にチップをはずむ。我々の帰る時、ヨーロッパ系の若い女性が入浴に来る、もちろん男女混浴で水着着用だが残念。帰り小生ヒザを痛めていたこともありナヤプルには夕方6時過ぎ、真っ暗ななかに到着。TK無事終了。

ポカラのホテルに帰りホテルでシャワーを浴び、近くのレストランに行き、水牛の肉のステーキとエベレストビールで無事帰還の乾杯をする、レストラン裏の中庭では地元の若者や子供たちのティハールの歌と踊りが続く、デジカメで写真撮ると皆がモニターを覗きに集まる。まだ素朴さが残っている。TKを予定どおりこなしたので観光にポカラで2日間休息できる。ポカラ街中では早朝アンナプルナ山群がどこからでも見渡せる。ホテル前のペワ湖の対岸の山の頂上にある日本山妙法寺へ向かう、日本の援助でできた寺と聞く、ここからはアンナプルナ連峰が一直線に並ぶ展望ポイントだ、壮観だ、思わずすごいと声が出る。遠くにマチャプチュレが毅然と立っている、あんな所まで行ったのだと改めて思う。次に街の中にあるヒンドゥバシニ寺院へ向かう、この境内からもアンナプルナ連峰が一望できる。少し角度の違う山々も趣が違う。

次にポカラの空港近くにある国際山岳博物館へ行く。

著名な登山家のエベレスト登頂の記録や写真、装備等展示している、鉄骨造の大きなドームの窓からはヒマラヤの山々が望める。広い公園の一角にマチャプチャレを模したコンクリート造の山がある、小西氏と交互に登り写真を撮る。

ガイドを断り 2 人で昼食は湖畔のレストランへ、夕食は近く中華料理屋へ行く。

次の日朝 4 時起き、ヒマラヤ連山の展望地、サランコットへ向かう、車を降り、40 分くらいヘッドランプを付け登る。途中今回ポーターを務めたビンセンの家による、彼も眠そうだが同行してくれる。展望台はすでにひどい人だかり、ポカラでの有名な展望台で観光の外人や地元の人々もいる。

日の出の一瞬を見ようと場所取りして、カメラを構えている、サランコットからの日の出はダウラギリ I 峰 8172m、アンナプルナ I 峰 8091m、マチャプチャレ 6993m、ヒマヤラの峰々が横一列に並ぶ、壮観の一言だ。どこから見ても日の出の一瞬は感動する。帰りビンセンの家によりお茶をよばれる、奥さんは土産用か機織をしている。

帰りのポカラからカトマンズへ向かう飛行機の窓からもしばらくヒマラヤの白い峰々が続く。アンナプルナ山群をそれぞれ違う場所から眺められ快晴の続くなかで堪能した。

ひとつひとつ書くときりが無いが少しずつ形のかわる山々は神々とあがめられるのにふさわしい象徴と写る。

夕食はガイドと別れホテル近くの日本食レストランの華 (HANA) に行く、ここも前回来たとき日本人のオーナーと長い時間テーブルで歓談したので、その時撮った写真を持ってきていたので渡す。久しぶりの日本食の味噌汁、日本のねばりのあるご飯、厚揚げや新香も落ち着く、牛のビフテキ (当地では牛は神聖なので食べない) それにオーナーのおごりで地元の焼酎のロキシーとぜんざい、冷奴をよばれる。前回 K2 で一緒にしたツアーリーダーの島方氏がツアー客と店に来ているとの事で挨拶する。彼らも日本食が懐かしいのだろう。

次の日も小西氏と一日観光する、パシュパティナートへホテル近くでタクシーを拾い行く。

ここはネパール最大のヒンズー教寺院でそばの川はガンジス川の支流で川岸に 7~8 台くらい火葬台が並んでいる。大きな木材のやぐらが組まれその上に布にくるまった故人が横たわっている。何組もあり、火葬し終わったらこの聖なる川へ遺灰を流す。周りに親族らしき人たちがいるが泣き叫ぶ人は少ない。天に召される儀式なのだ。

昼過ぎ市街地に戻りガイド本に乗っているネパール料理店を捜し昼食をとる。ラーメン風とモモ (ネパール餃子) を食べる。近くの王宮広場のダルバール広場へ行く、ここはカトマンズの観光地なので何度か訪れているので勝手がわかっている。道の両サイドには露店が並び、その間を人と自転車、バイクがぎっしり、行きかっつっているエネルギーというより無造作で雑多である。そこがネパールの良さなのかもしれない。

今回小生左ひざ痛が再発、小西氏には大変お世話になり、迷惑を掛けた。ほとんど事前の訓練も出来なく不安いっぱいだった。このコースはエベレスト街道よりアップダウンが多くしかも延々と続く石段には泣かされた。何度か川を渡るたびに下り、そして又登るのを繰り返す、どこの山も楽をさせてくれない。しんどいこともあるがでもそれ以上に感激と爽快感を与えてくれる。16 日間の旅だったがその中に凝縮された経験、思い出ははてしもなく大きく残る。家族や友人に感謝、健康に感謝。ダンニャバード！



アンナプルナ BC4,130mにて、アンナプルナサウス 7,219m マチャプチャレ 6,993m



朝焼けのマチャプチャレ



頂上が魚の尾に見えるのでフィッシュテールと呼ばれる



日本山妙法寺より



サランコットの日の出



アンナプルナサウスバックに



ティハールで踊る子供たち

私の余生は古い仕度（その9）

2014. 2. 15 須藤 和雄

この「私の余生は古い仕度」とタイトルを付けた連載エッセイは何処に向かうのか分からなくなって来ました。

何れ訪れる「ボケ」を少しでも将来に伸ばしたいと云う思いで今まで『大風呂敷』を拵げて参りましたが、今回は更に拵げて参ります。

これが最後の大風呂敷で、次号以降風呂敷を小さくして参ります。

昨今の「八剣山の会」行事には歴史、取り分け「神話」に関係するものが多くなった気がします。

伊勢本街道シリーズ「伊勢神宮」、記紀万葉シリーズ「神武東征」、今年 1 月の「出雲の国、カニ食いつアー」で触れた出雲神話・・・

歴史の勉強嫌いの私ですが歳のせいもあってか『神話』に興味を抱く様になり、チョット調べて見ました。

★世界の神話に共通点が見られるとの事です。

<http://menzine.jp/trivia/sinwafushigi0329/>

★古事記などで語られる日本神話の神々から人間らしさが伺えます。

神と崇める存在が人間に近い嫉妬や恐怖などの感情を持っています。

そして神話物語の共通テーマ(キーワード)は「創造」「旅」「愛」の様です。



と云う事で諺『苦しい時の神頼み』もこれから大事な生きる術になると感じています。

本誌新年号の特集記事＜私の宝物＞「中村天風の言葉の葉」を拝読して感じた事があります。

★ひたすら「想う」「唱える」そして「身体を使う」は値千金★

ここには下の「幸せの方程式」が思い浮かぶのです。

(想う + 唱える = 念ずる) / 身体を使う = 叶う・安寧

これは世の中を見渡すと色々なシーンで見付ける事が出来ると思います。

- 般若心経←仏教各宗派(浄土真宗以外)
- 南無阿弥陀仏を唯唱えれば良い←浄土真宗／親鸞
- 「懺悔懺悔 六根清浄～」←大峯奥駈の修験道
- 百度参り←同一の社寺で「百度石」を巡り参拝すること
- 祈りの道／巡礼の旅(西国三十三ヶ所観音巡礼など)
- 聖地巡礼の旅→メッカ、エルサレム、ベツレヘム
- ジョセフ・マーフィー（思想家）の言葉

願望を簡単な言葉にまとめ、それを子守り歌のように繰り返しなさい。

願望を持つことは、その人の視線を未来に、前向きにすることになる。

漠然とした感覚ではなく、具体的なハッキリとした言葉に表せば、

イメージは明確になり繰り返すことで意識も高まる。

ただ漠然とした願望を持つだけでは、実現性は乏しい。

【参考】哲人 中村天風誦句集

http://k2.fc2.com/cgi-bin/hp.cgi/informan/?pnum=9_107

以上、調べた事に独り善がりの理屈をつけて羅列してしまいましたが切りがないのでこの辺で筆を置きます。

書き終えて思うのは「日頃感じていたモヤモヤの気持ち」の整理が出来て爽やかな感覚を覚えたと言うことです。

(つづく)

(ちょっと一言)

上記の話との関連性を説明するのが私にとって難しいのですが気になっている事を書き留めます。

☆生命の真の創造者は、大自然の偉大な働き「サムシング・グレート」だ
…筑波大学名誉教授・村上和雄

<http://alfalfa.com/archives/7542272.html>

☆映画『祈り～サムシンググレートとの対話～』 予告編

<http://youtu.be/88MUZ-1LZm0>

※『祈り～サムシンググレートとの対話』よりメインテーマ

板垣美沙緒：ヴァイオリン、高橋 全：ピアノ(癒されます)

<http://youtu.be/f11oJ2jS7Mc>



新緑は**常若**(とこわか)のイメージ

私の宝物～新聞社入選俳句～

2015.2.10 金城 凡生

小西さんや須藤さんのような多趣味の方と違って、私の趣味は俳句ぐらいのもの。従がって＜私の宝物＞はそこに行きつく。俳句の師匠から『自己満足せず他流試合で句を磨け！』と発破を掛けられ、先ずは朝日新聞の大和俳壇へ投稿することになった。暫くはなかなか入選できず諦めかけていたが続いているうちに入選し、続いて読売新聞奈良版へ、そして読売全国版へと広がった。各紙に掲載された次の入選作品が私の宝物です。この俳句の投稿は今も続いているので、これに慢信せず宝物の更なる積み重ねをしたいと思っている。

読売新聞全国版入選作

冠雪にそれらしくなり在所富士	<平成 25 年 12 月>
やはらかに葛（くず）打つ雨も山の音	<平成 25 年 9 月>
浜木綿や故郷（くに）のちゅら海なつかしく	<平成 25 年 9 月>
かりそめの竹の煙突糲（もみ）を焼く	<平成 25 年 11 月>
それなりに冬籠（ふゆごも）りすと那覇の友	<平成 26 年 2 月>

日本経済新聞入選作

旅立つ子金魚のことをこまごまと	<昭和 63 年 9 月>
-----------------	---------------

朝日新聞奈良版入選作

妻も子も寝しこおろぎの闇の家	<昭和 59 年 9 月>
犬の前静かに消ゆる穴惑（あなまどい）	<昭和 59 年 11 月>
淡雪の眼鏡にふれて消えにけり	<昭和 60 年 3 月>
生垣で別れる秋の蝶と影	<昭和 61 年 10 月>
焚火消え子の見つけたるオリオン座	<昭和 63 年 2 月>
秋天や棺（ひつぎ）に納む世界地図	<平成 8 年 12 月>
杣人（そまびと）の昼餉の焚火つつましく	<平成 14 年 1 月>
職退きて田舎ぞよけれミヤコワスレ	<平成 15 年 5 月>

読売新聞奈良版入選作

元朝や紋付鳥（もんつきどり）を庭に見て	<平成 27 年 1 月>
さびしくて人に添ひたし草虱（くさじらみ）	<平成 26 年 11 月>
車窓より飛び込んで来る稲明かり	<平成 26 年 11 月>
筒鳥と我のみ尾根の尽きるまで	<平成 26 年 9 月>
合歓咲くや女人高野の見ゆる丘	<平成 26 年 7 月>
散る花もこれより京へ疎水口	<平成 26 年 6 月>
山いくつ越えて室生寺葛の花	<平成 26 年 10 月>

以 上

私の宝物はゼッケン

2015.02.02 木山 裕昭

初めてマラソンを走ったのは、2011年4月の志摩ロードパーティでの3回でした。そこで、マラソンの魅力にすっかりはまってしまい、2回目は同年12月の奈良マラソンで5回、3回目は2012年4月の志摩ロードパーティ10回、4回目は同年12月の奈良マラソン10回、5回目は2013年4月の志摩ロードパーティ10回、6回目は同年10月の和歌浦ベイマラソン10回、7回目は2014年10月のひさい榊原温泉マラソン5回と毎年走ってきました。

そして、参加したマラソン大会のゼッケンを宝物として大切に保管しています。このゼッケンを見ていると、あの時は冷たい雨の中を歯をくいしばってなんとか志摩スペイン村のゴールまでたどり着いたんだとか、奈良公園では、幼稚園の園児から応援のエールをもらって、元気づけられて公園を走り抜けたとか、その時々のがつかったことや、完走できたことの喜びが思い出されます。

今年も、自分の身の丈に合った、マラソン大会に参加して、楽しみながら走りたいなと思っています。そして1枚のゼッケンを宝物に追加したいな。



宇宙は分からない、何が宇宙ロマンなの！

2015. 2. 15 須藤和雄

2011 年夏「八剣山の会」大台ヶ原一泊登山の時「天体観測をしよう!」と云う機運が盛り上がり「天体望遠鏡」を運び上げた記憶がある。残念ながら夜の降雨で観測出来なかったが・・・



その時、私は 67 歳、何故か勉強する気になって宇宙関連書籍を読んで見たり、宇宙関連ウェブサイトを覗いて見たりしたものだった。

それまでは「宇宙」と云えば「月は地球の衛星」、太陽の惑星は“すいきんちかもくどってんかいめい”、七夕には天の川を見上げるのが習わしだ位しか知らなかった。従って宇宙物の愛読書と云ってもはその時チョツト触れて見た書籍である。

(1) 宇宙のすべてがわかる本 《史上最強カラー図解》

(国立天文台天文情報センター長 渡部潤一監修)

太陽や月、地球といったわれわれの身近な天体から、はるか遠くの恒星、そして銀河など、宇宙に関するあらゆる最新情報をオールカラーで紹介。

第 1 章 宇宙の果てに迫る

第 2 章 星雲と恒星

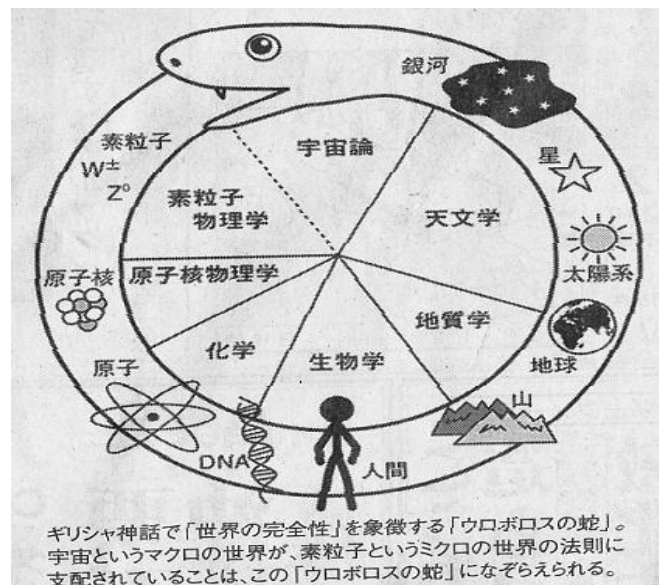
第 3 章 太陽系と太陽

- 第4章 太陽系の内部
- 第5章 太陽系の外部
- 第6章 宇宙の仲間たち
- 第7章 21世紀の宇宙探査
- 第8章 望遠鏡をのぞこう

【所感】 子供対象の本である様だが新聞、TV等で宇宙物のニュースに出会うとこの本で大体の事は分かる。大袈裟に云えば“座右の辞書”だ。

(2) 宇宙は何でできててるのか —素粒子物理学で解く宇宙の謎—
(東京大学数物連携宇宙研究機構初代機構長 山村 齊)

【所感】 本の目次を見て興味を感じ購入、日本語で書いた本なのに全然理解出来ず。いろいろ感を覚えて、本書は本棚へ。
特に序章「ものすごく小さくて大きな世界」
10の27乗、10のマイナス35乗の世界「ウロボロスの蛇」の話で私の理解を越えた。



(3) 宇宙関連ウェブサイト (最近ではこれも書籍の一つの形だと思っている)

★NASA Science (アメリカ航空宇宙局サイエンスニュース)

<http://science.nasa.gov/>

★Astronomy Picture of the Day Archive (NASA) (日替わり画像が楽しい)

<http://apod.nasa.gov/apod/archivepix.html>

★宇宙の渚 NHK宇宙チャンネル (流石、金持ちのNHK)

<http://www.nhk.or.jp/space/nagisa/>

★Stella Theater Web (世界中の星空を自由にシミュレートが楽しめる)

<http://www.stellatheater.com/>

★AstroArts 星を見る・宇宙を知る・天体を楽しむ総合サイト

<http://www.astroarts.co.jp/>

★ブラウザで「インターステラー」のワームホールとブラックホールを体験

<http://gigazine.net/news/20141223-interstellar-interactive-wormhole/>

ここまで来ると面白いが何かが何だか分からなくなる！

【所感】私は「宇宙ロマンの解らない男」なのかも知れない。

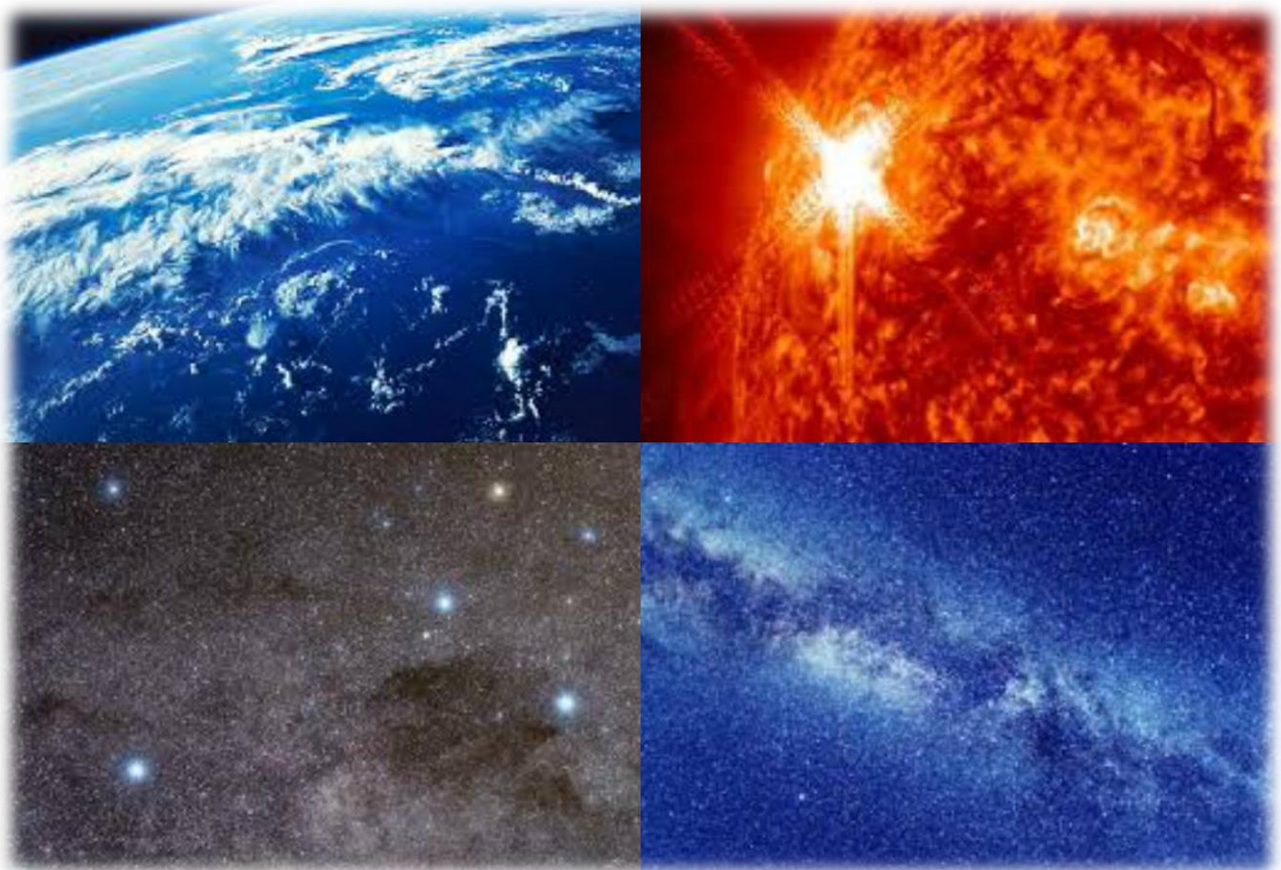
今、TBS金曜ドラマ「この愛こそ正義。ウロボロス」を放映中。

<http://www.tbs.co.jp/OUROBOROS/>

「法の番人 vs 闇の番人」が何故ウロボロスなのか、意味不明。

ウロボロスとは・・・ <http://www.tbs.co.jp/OUROBOROS/about/>

(この話題は以上、続編なし)



綺麗だけど訳が分からない宇宙

最近の注目すべき登山情報 3

2015. 2. 15 情報まとめ：須藤和雄

この「最近の注目すべき登山情報」は 2014 年春季号からスタートし今回は第 3 回目です。



最近「山と溪谷社」より「関西ハイキング 2015」が発売されましたがそのトップ記事が『関西の富士とアルプス』です。

我々山好き仲間として関心が深いと思いますのでその概要を紹介します。

【富士の部】



▲青葉山(若狭富士)⇒**2015 年 9 月 17 日登頂予定**
標高 692m



▲三上山(近江富士)⇒湖西線から湖東に見える
標高 432m



▲野坂岳(敦賀富士)
標高 913m



▲牛松山(丹波富士)
標高 636m



▲麻生山(播州小富士山)
標高 172m



▲旗尾山(天見富士)
標高 548m



▲龍門山(紀州富士)
標高 755m



▲額井岳(大和富士)⇒毎日眺めて暮らす里山
標高 618m

【アルプスの部】

△金勝 △新龍 △播磨 △加西 △小野 △湖南 △紀泉

《関連話題》

●全国に約 320 座の「ふるさと富士」があります。

[日本の富士一覧](#)

●[榛原の近くにある富士](#)

朝倉富士（外鎌山）⇒2013 年 12 月 9 日登頂

宇陀富士（烏ノ疇屋山）⇒十八神社からはっきりと見える

都祁富士（都介野岳）⇒2015 年 12 月 17 日登頂予定

大和富士（額井岳）⇒毎日見て心とんでいる

●毎年 2 月 23 日は『全国富士山の日』←2(ふ)2(じ)3(さん)

宇陀市でも今年は 2 月 22 日(日) 大和富士登山大会！開催！

（申込不要、自由参加、10 時大和富士ホール前スタート）

●2013 年 5 月 24 日《関西テレビ》スーパーニュース アンカー 金曜日のギモン！

[「大和富士\(額井岳\)からダイヤモンド富士撮影に成功！」](#) が放映されました。

●我々「八剣山の会」の最近の富士登山実績は以下の通りです。

大和富士(額井岳)→毎年 12 月

伊賀富士(尼ヶ岳)→2011 年 4 月

薩摩富士(開聞岳)→2013 年 5 月

出羽富士(鳥海山)→2014 年 8 月…悪天候で登頂は断念

【 所 見 】

日本には北は北海道「利尻富士/利尻岳」から南は沖縄「本部富士/日良山」まであります。

正に日本全国富士だらけ、ふるさと富士は「故郷の自慢の山」とか。

日本人は地元形に形がいい山があると「日本最高峰富士山」に見立てるのが好きな国民性なのかも知れません。

登山情報 3（完）

《お願い》

この「最近の注目すべき登山情報」は高見さんの発案で始まった連載記事です。

「八剣山の会」に相応しい切り口、情報の共有方法だと思います。

素晴らしい登山情報をお持ちの方、新しい登山情報を発見した方はどんどん記事にして寄稿して下さい。または、編集委員に情報を提供して下さい。

山岳遭難者の手記（奈良県警HPより）

平成24年10月8日（月）日帰りで前鬼から太古の辻、釈迦ヶ岳を目指して山に入りましたが、その手前の「二つ岩」あたりで道に迷いました。迷った時、「どうしようか」と考え、川を下って人里まで歩くことに決めましたが、結果的には、これは誤った考えであることが分かりました。川を下っていくと小さな滝が幾つかあり、川岸の崖をよじ登って山を越えて川を下っている途中、足を滑らせました。「あっ」と思った時、すでに水の中にいるのに気付き、川の中の岩にしがみつき、岩の上に出ました。前頭部が痛くて手で触れると、血が付き少し腫れていました。あわてて両手で圧迫し、しばらく仰向けに休みました。その後も滝を避けながら川を下り、崖っぷちを歩いていた時、滑って仰向けに倒れて今度は後頭部を強打し、「もう終わりか」と思いました。全く痛くなかったので、「死ぬ時はこんなものかな。」と思いましたが、よく見ると、腐りかけた倒木に頭を打ちつけたから痛くないことが分かり、「まだ、見捨てられていないな」と思いました。再び下流へ下っていくと、巨大な滝に出くわしました。しかし日没となり、平らな場所を探し、枯れ木を集め、野宿となりました。「ああ、今日はついてないなあ。」

9日（火）、ついに昨日家に帰れなかったことで、「あと2～3日かけて何としても人里へ行こう」と右側の山を越えると緩やかな流れの川があり、これを下って行くと、再び巨大な滝が現れました。この左岸には下流で前日の川が合流しているのが高い崖の上で観察できました。絶体絶命のピンチでした。初日の川の左岸の低い山の方へ向かおうと川に近づくと、昨日野宿した場所に出ました。この時、ある体験を思い出しました。数年前の5月連休に歩いた羽州街道、雄勝峠の雪の積もった北斜面です。雪で同じような景色に消えたところを何回も何回も、数時間にわたって歩いたことを思い出しました。「魔のサイクル」です。「これはまずい」滝の上流で何とか川を渡り左岸へ出ました。そして山を登り、溪谷に沿ってアップダウンしながら山を下流に向かって移動しました。ここで2日目の野宿。

10日（水）、山は上りとなりましたが、気にせず、どんどん歩き、10キロ以上歩いた時、兩岸の山が少しなだらかになっているのに気付きました。午後3時ころ、地表から50センチ位の所を走っているレールに接近したり、離れたりにするの気付きました。そして、山頂近くの見晴らしのいい所で野宿。日が落ちると寒いので、持参の物をすべて着て、その上にカップを着て眠りました。何しろ、前鬼に駐車した車の中にシュラフ、ヘッドライト等を置いてきたので雨具しかなかったのです。

11日（木）、毎日夜明けに出発し、日没に眠る生活をしていました。食糧が9日に尽きて3日目でしたが、水だけはいくらでも手に入りました。昼過ぎ、向かいの山の中腹（川から500メートルくらい上）に横に白いものが見え、1分位ジッと見てみるとそれは橋のようで、ビデオカメラのズームで拡大すると、間違いなく橋でした。林道に違いないと考え、

そろそろ川へ下りようとする、レールも同じように下に向かっていて、レールの先に5～6人乗れるモノレール車両と収納小屋がありました（森林組合のモノレールでした）ので、レールに沿って歩くことにしました。崖が多く、川に軟着陸できる場所を探しながら3時間、川まであと20メートルの崖の上でレールは終わっていました。「一度降りて、向こう岸をよじ登れそうな所は？」その時、赤茶けたボロボロの吊り橋を発見、上を支えている鋼線に掴まり、橋には体重を掛けないようにそっと歩き、橋を渡りきった時は「助かった」と思いました。すると、再びレールが現れ、さらに2時間、岩と土から張り出した木の根に掴まり、足をかけ崖をよじ登って行きました。しかし日没、野宿。

12日（金）、さあ、今日は人に会える日だ。朝6時、再びレールに沿って上り開始し、7時過ぎにはモノレール車両と収納小屋があり、そのすぐ上が、予想した林道（池郷林道）でした。下りの道を進むと、腰が抜けました。山の崩落で道が無くなっていたからです。しかし、200メートル先にはこの道の続きが見え、崩落部の上を通って再び林道に出て、前日に発見した橋を渡りました。10時前、民家が数軒見えてきました。右を見ると銀行があり、そこで救助を求め、5分位でパトカーが来て、お巡りさんに「〇〇さん（遭難者の名字）ですか？」「はい、そうです。」捜索願が出ていたのです。そこは、下北山村池原という場所で、吉野警察署山岳救助隊に保護されました。

捜索はヘリが9日から、民間の捜索隊が10日から、そして私が発見された日、12日がタイムリミットでした。下った川は池郷川で、あまりにも移動したので捜索圏外でした。後で警察の方から、「山で道に迷ったらその場を動かず、枯れ木を集めて“のろし”を上げるように」と教わりました。気象条件、モノレール、吊り橋、橋の発見等、私は運良く助かったと思います。

私の教訓を3つ挙げて体験記を終わります。

- 1) しっかりした準備をしてください。（シュラフ、ヘッドライト、詳細な地図、ライター、食糧最低3日分など。）
 - 2) 大峰山系とか初めて歩く奥深い山はガイドをつけること。
 - 3) 骨折・捻挫した人、体力のない人だけでなく、体力のある人でも山で迷ったら大きな倒木の周りに枯れ木を集めて2～3日“のろし”を上げること。
- 私のように、自分が招いた災いだからといって、自分だけで何とかしようとする生き方では帰れないこともあります。無事に帰還でき、職場復帰しましたが、世の中にご迷惑をかけたことをひたすら反省しております。

※この遭難の場所は同じ年に八剣山の会が登山した前鬼から大日岳のコースです。身近な話なので春秋に転載させて頂きました。この種の遭難はよくあるケースですので私達も教訓としたいところです。（高見記）

※次ページは奈良県警の“登山計画書”です。（ご参考です）

登山届出書

目的地	入山口 ～ 山岳名 ～ 下山口	登山予定経路略図	
団体名等	(団体名) (所在地) (TEL)		
リーダー 及び 参加者数	(住所) (氏名) (年齢) 歳 (入山時所持の携帯電話番号) (勤務先) (緊急連絡先) 参加人員 人 (うち男 人、女 人) 食糧 () 日分 非常食 有 ・ 無 雨具 有 ・ 無		
入山日	月 日	食糧 () 日分 及び 非常食 有 ・ 無 下山予定日 月 日 装備 雨具 有 ・ 無	(略図記載例)
登山口 までの 交通手段	・バス (下車バス停名) ・車両 (ナンバー) ・その他 ()		
メンバー	(住所) (氏名) (年齢) 歳 (職業) (連絡先) (携帯電話番号)		
バ	(住所) (氏名) (年齢) 歳 (職業) (連絡先) (携帯電話番号)		
備考	※・携帯電話番号は入山時所持の場合のみ記入 ・メンバー欄が不足の場合は裏面に記載		※ 略図はわかりやすく記載し、 コースを矢印で示すこと

編集後記：＜立春やおのずと声に早春賦 凡生＞♪春は名のための風の寒さや♪
独りでにこの歌を口ずさむ候になりました。＜切通し右にひだりに初音かな
凡生＞ゆあほうむ榛原の前を西へ行くと、信号の手前の道路は山を削った切通
し（きりどうし）です。2月も末散歩の折、両側から鶯の初鳴きを聞いて山国
の宇陀にも遅い春の訪れを実感。それからは落の臺・迎春花と日毎に春の息吹
を感じています。この春季号が皆さん手に入る頃には、大和富士も芽吹き草
木に囲まれていることでしょう。＜麓では園児の遊戯山笑ふ 凡生＞▲会員の
皆様には2月に木山さんからご報告のとおり春秋誌へのアンケートのご回答有
難うございました。貴重なご意見を今後の編集に活かすよう編集委員一同思い
を新たにしております。今後ともご提言などご協力をお願いいたします。▲今
号のトップ記事には＜出雲の国・カニ&温泉ツアー（案内人林田さん）＞を採
り上げました。これは高見さんの記事に須藤さんの写真提供の協力もあつての
作品です。参加者10名の楽しくも賑やかな旅でした。俳句集（1）（2）もご
鑑賞ください。又、安来節の本場での「どじょうすくいショー」の大会では、
野田さん・美並さんが出演し、野田さんがショーを大いに盛り上げました。荘
厳な出雲大社での参拝は＜二礼四拍一礼＞であることも知り、願い事も倍に増
やしたものです。＜四拍に願いも倍に寒詣 凡生＞▲今号の表紙は野田さんの
作品「美榛苑」です。表紙絵の作者はこれまでの小西さん、美浪さんに続いて
3人目で、ここでも芸達者な一面を見せています。何かとご支援ご協力のご長
老に厚く感謝申し上げます▲「最近の注目すべき登山情報」では、須藤さんが
情報を纏め「関西の富士」を提供してます。それによると「ふるさと富士」（又
は在所富士）と呼ばれている「富士」は全国で320座があり、この地でも大
和富士もふくめての4座を披露してます。そして大和富士からダイヤモンド富
士撮影に成功した映像は一見の価値がありますよ。大台ヶ原からの富士山遠望
は聞いてましたが……。▲高見さんが取材した「山岳遭難者の手記(奈良県警
HPより)」は、遭難を体験した登山者がその反省から「貴重な3つ体験記」を述
べてあります。傾聴に値する戒めですから参考にしたいものです。遭難した山
は、八剣山の会が登ったこともある前鬼から大日岳のコースであるだけに身近
な話でもあります。▲特集「私の宝物」今回は木山さんの「ゼッケン」と金城
の「新聞入選俳句」でした。皆さんも秘蔵？の宝物をご披露ください。また、
＜ビフォア・アフター＞（今昔物語・住む町や個人の今・昔など）お寄せく
ださい。お待ちしております。▲次の夏季号の発行日は6月20日で原稿締切
は5月31日です。最後に剣術士こと、甲斐田博幸さん退会のことです。ご本
人から膝の痛みを訴えて2月で退会された事をご報告します。 凡生
